



# ガーデニング

土が乾くと、水に溶けにくい石灰や微量元素欠乏が出やすくなる

肥料は水に溶けて交かき始めるんだニヤ

元肥はまんべんなくネ

日光 水 二酸化炭素



## 肥料

肥料を与え過ぎて失敗することが多い。少しずつ継続して、がコツ



つまり 適量を 守ること



追肥は液肥でも良い

追肥は鉢のフチのフチだニヤ

吸できません。しっかり水管理することが肥料を効かすポイントです。

特にリン酸や石灰(Ca)は土壌改良剤として、土に均一に含ますとよく効く

油かすのようなチッソ分が多い肥料だけでは、植物はバランス良く育たない

- 大きくしたい時期はチッソ(N)が中心
- 花や実を作るにはリン酸(P)やカリ(K)が大切
- 根を丈夫にするにはカリ(K)が必要

※ N+, P+, K+は肥料が水に溶けてイオンの状態になったことを表す



海のミネラルが根の活力をアップするハイポネックス「いろいろな植物用サブリ」700円・788円を10人に。23%の応募要領で。プレゼント番号=30、賞品名=サブリ 商品提供=ハイポネックス ジャパン 06-6396-1119



植木鉢でも美しい梅が(製作/「金久 神藤知治

# 【肥料の基礎知識】

植木鉢やコンテナでは少ない土でバランス良く植物を育てることが大切。過不足なく肥料(養分)を補給することが肝心です。上手なやり方をおさらいしましょう。

## 【肥料なしでも育つ】

植物の主食は水と二酸化炭素と日光。肥料を与えなくてもすぐ枯れません。しかし、花を咲かせたり、実を付けたり、バランス良く育てるためには肥料が大切。チッソ(N)、リン酸(P)、カリ(K)の3大要素を生育に合わせて適切に与えます。

## 【鉢には有機肥料より化成肥料】

肥料には、油かすなどの有機肥料と成分をバランス良く配合した化成肥料があります。植物の根は直接、有機物を吸収できず、土の少ない植木鉢では有機肥料の分解が中途半端になり、根傷みを起こしやすくなります。初心者には、緩効性肥料や液肥を主体に使う方が無難です。

## 【育てる基本は元肥】

元肥は初期生育を促し、栽培期間全期にわたってベイスとなりまます。じっくり長持ちが大事。効果が持続する緩効性肥料を使用します。土1g。当たり2〜3gを、土全体にまんべんなく混ぜておきます。苦土石灰や微量元素も土に均一に混ぜておきます。市販の園芸用の土には最低限の初期肥料が入っているので、初めて使う場合は追肥から始めます。

## 【生長を促す追肥】

植えて2週目以降、新芽が伸び出したら、葉の色を見ながら追肥を与えます。植木鉢では素早く肥料を効かすため、液肥や根に優しい緩効性の化成肥料を使います。成長期はチッソ、開花期や結実期はリン酸とカリを多めに与えます。コツは株元から離し、鉢の一番外側に分散して置くことです。

## 【上手な水やりがポイント】

植物の根は、肥料が水に溶けたイオンの状態ではしか吸